

高品質のトマトを消費者のもとへ！

9月1日、中津川のトマト部会の会員7軒が、宮脇芳忠さん所有のビニールハウスでトマトの種まきをおこないました。

今年は、これまでの品種「ろくさんまる」から新品種「麗容」に生産の80%程度を切り替えました。

麗容は、従来の品種に比べてきめが細かくよりおいしいとされる一方、病気に弱いなど弱点もあり、化学肥料をほとんど使わず有機肥料を多く使う本町のトマト農家にとっては栽培技術を工夫するなど腕の見せどころです。

部会長の宮脇芳忠さんは「品種は手探りの状況ですが、後継者も出てくるなど明るい展望もあり期待が持てます。今年は例年に比べて一番力が入っています。」と力強く話されました。

このトマトの収穫は、12月末ぐらいからの予定です。

一粒一粒丁寧に植え付けています。



花は霧島、たばこは薩摩 葉たばこ収納

9月18日、19日、大口市の大口葉たばこ取扱所で葉たばこの収納（出荷）がおこなわれました。現在葉たばこは全量J.T.（日本たばこ産業株式会社）の買い上げとなっており、町内では求名12戸、中津川13戸、永野1戸の計26戸が生産されています。当日は、J.T.の審査官2名による検査に、地元耕作者、関係機関が立ち合って判定がおこなわれました。赤崎敬一郎経済課長は「今年は天候不順により、重量は少ないが、品質は例年並。」と評価。また「本町はたばこ耕作者が川薩地区でも一番多かったが、近年高齢化によりやめられる方もでてきており、新規耕作者の掘り起こしも課題です。」と話していました。



活気ある審査場の様子

たけのこ生産者の皆様へ（注意！）

今夏、求名南部の竹林で害虫被害が発生しました。

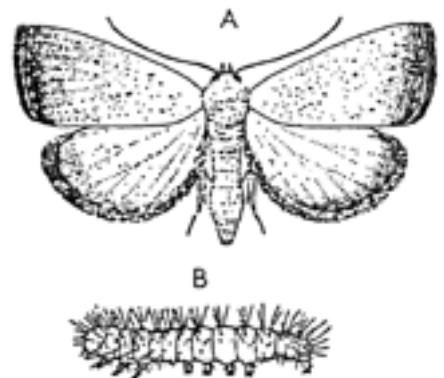
この害虫タケノウスイロアツバは、幼虫のときに新しい葉を食べ、葉に透かし状の喰い痕を残し、成長すると葉をすべて喰いとってしまいます。

通常発生は年に4～5回あり、夏に中程度の被害、秋に大きな被害が発生しやすく、大被害になると筍の生産量が通常の50%以下に減少することもあります。

県内では昭和55年に北薩地方で異常発生しましたが、その後は被害が出ていませんでした。

幼虫は体長が1cmほどで黄緑色、背に褐色の毛があり、成虫も体長1cmほどで淡い黄色です。

竹林を確認され、もし発生・被害がありましたら役場経済課林務係（☎ 57-1111 内線260）までお知らせください。



タケノウスイロアツバ
A：成虫（雌） B：老齢幼虫